

転倒転落対策確立を目指した 課題抽出とCurrent Best Approach

企画・座長 杉山良子・高田誠

演者

【発表】

パラマウントベッド株式会社
名古屋大学医学部附属病院
日本赤十字社
パラマウントヘルスケア総合研究所
伊奈病院
笠幡病院
竹田総合病院

杉山良子 (プロジェクトリーダー)
梅村朋
黒川美千代
初雁卓郎
金子由香子
鎌田博司
須田喜代美

【パネルディスカッション進行】

オーセンティックス株式会社

高田誠

COI開示

講演発表に関連し、発表者らの開示すべきCOI関係にある企業として；

パラマウントベッド株式会社

プロジェクトのコーディネーションとファシリテーション

「転倒転落防止対策確立プロジェクト」

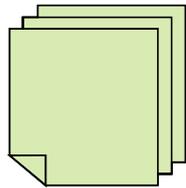
- 転倒転落防止の取り組みは、個別の現場主導の試行錯誤で成果を上げている組織がある。
- 一方、全体としては慢性的な問題となり、解決がすすまない。



- 現場スタッフからの生の声を集める専門家集団のプロジェクトとして発足（2023年3月）
- 個々の病院・担当者が試行錯誤から見つけた、見つけつつある最善の考え方とやり方を形式知化。
「現時点での最善」を広げ、磨き、最終的には「確立」をめざす。

現場の「最善の運用」を「書き出す」

形式知
Explicit
Knowledge

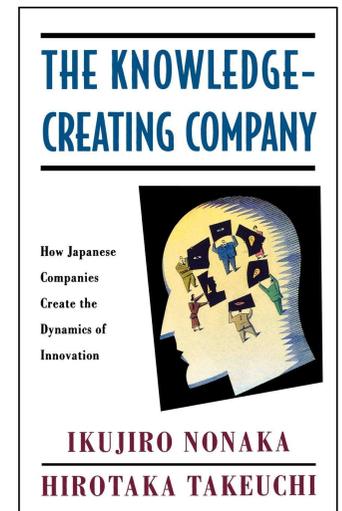


ナレッジとして
他者が活用できる状態

* 重要な考え方
* 効果的な手順

暗黙知
Tacit
Knowledge

現場の思考錯誤の
学びからうみだされた
「最善の運用」



1995

Current Best Approach (CBA)

- 「現時点で最善」の取り組み方
- **現場の試行錯誤で生み出された最善の考え方とやり方を「書き出す」**
- 「現時点での最善」をリアルタイムで他者が活かせるようにする
- 「現時点」を運用からさらに磨き、ノウハウとして確立する。



進め方のイメージ

23～24年

Phase I

現時点でのノウハウの抽出

- * ポイントとなる考え方
- * 効果的なアクション

25～26年

Phase II

ノウハウの進化と構築

26年以降

Phase III

エビデンス化と標準化

領域を整理してポイントを抽出

- 1 組織の理念とビジョン
- 2 年間の目標設定
- 3 物的対策
- 4 人材と運用
- 5 患者と家族
- 6 個別の対策